

アメリカ合衆国大統領
バラク・オバマ 殿

新たな形態による核実験の度重なる強行に断固抗議する

貴国エネルギー省（核安全保障局）は、4月～6月に続いて、7月～9月にも新たな形態による核実験を実施（通算10回目）したことを公表した。核のない世界の実現を世界に向けて呼びかけた、過去のオバマ大統領の演説にも矛盾し、核のない世界を求める全世界の世論にも背を向ける、断じて許されない行為である。

貴国は、1945年に広島、長崎に原爆を投下し、またその後の多くの核実験によって世界中に、そして貴国民自身へもたくさんの被爆者を生み出し、今なおその苦しみにさらされていることを強く認識すべきである。

核兵器の廃絶こそが人類の永遠の発展を保障するものであり、核兵器の抑止力にたよる限り、決して永遠の平和は実現されることはない。まさに貴国の行為は、人類の未来にたいする犯罪であり、脅威である。

9月の核軍縮に関する国連総会ハイレベル会合で強調されたように、「原子兵器および他のすべての主要大量破壊兵器の各国軍備からの一掃」を求めた第一回国連総会第一号決議に、今こそ立ち返るべきである。

貴国は、世界で唯一核兵器を実戦で使用した国である。だからこそ、その貴国の大統領が行った、核兵器の無い世界を求めた演説は、全世界を勇気づけ、そして説得力を持って歓迎されたのである。その期待と信頼を貴国は決して裏切ってはならない。

私たちは、広島・長崎の被爆者をはじめ、唯一の被爆国、日本国民の運動として、貴国政府がいつさいの核実験の計画を廃棄し、核兵器廃絶のために世界の先頭に立って誠実に努力することを強く求めるものである。

2013年11月1日

生協労組おかやま

委員長 坂本 浩

岡山市南区藤田564-178